

(お 知 ら せ)



平成 23 年 2 月 7 日
日本原子力発電株式会社

東海・東海第二発電所における安全向上への取組みについて

1. 当該期間に安全対策等 実施した項目

- (1) 発電所の状況
- (2) 耐震関係の取り組み状況

2. 具体的な内容

(1) 発電所の状況

1) 東海発電所（廃止措置中）

- ①東海発電所の廃止措置工事は、熱交換器撤去工事について遠隔解体装置を使用して作業を実施中です。

2) 東海第二発電所

- ①東海第二発電所（沸騰水型軽水炉、定格電気出力 110 万キロワット）は、定格熱出力一定運転にて、安全・安定運転を継続中です。

②東海第二発電所 タービン建屋オールドレンの誤った移送について

平成 22 年 8 月 16 日に、発電長は、管理区域内に設置されているタービン建屋オールドレンサンブ*1（B）内の廃油（主に使用済みの廃油）を放射能濃度測定を実施せずに屋外（管理区域外）のオールドレンサンブピット*2へ誤って移送しました。

なお、移送した廃油の放射能は検出限界値未満であり、環境への影響はありませんでした。

当社としては、社内規程に定められている移送前測定手順が遵守されなかったことを重く受けとめ、今後は、対策として管理区域内で発生した廃油の管理区域外への移送を取り止めることとし、管理区域外への移送ルートの開止等の改造及び手順書等の改正を実施します。本対策が完了するまでの期間については、放出管理手順の再周知及び放出管理対象系統の放出弁の施錠管理等再発防止を図るとともに、原因の分析結果に基づき抽出された再発防止対策を確実に実施してまいります。

（本件は、原子力安全・保安院より保安規定違反の「監視」に該当すると判断されました。）

（添付資料参照）

*1：タービン建屋オールドレンサンブ

タービンの潤滑油など、使い終わったオイルを集め、測定管理するための容器。

*2：オールドレンサンブピット

オールドレンサンブから移送された、測定済みのオールドレンを一時保管するための容器。

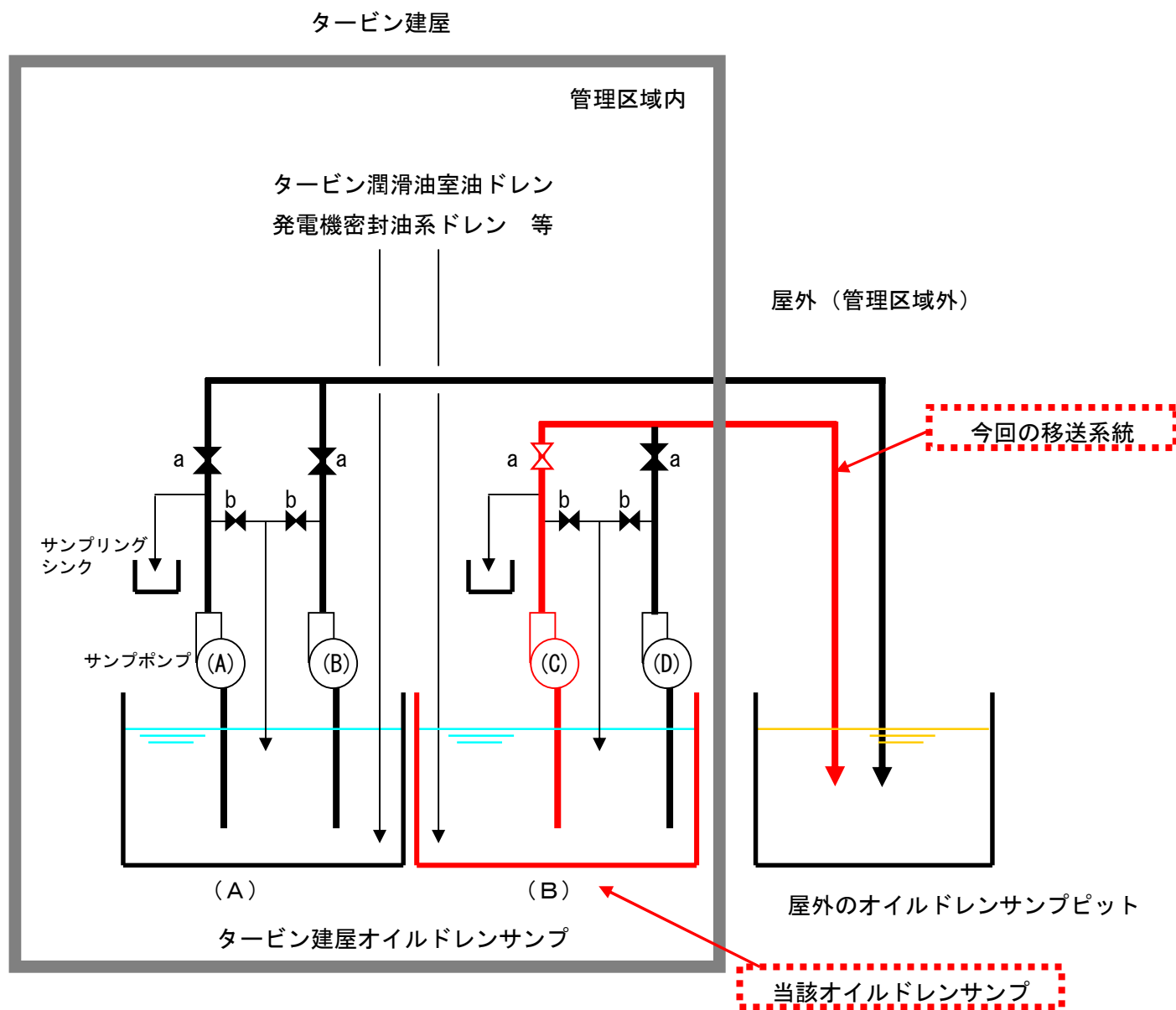
(2) 耐震関係の取り組み状況

平成 22 年 9 月 30 日に保安院から、当社の報告内容（東海第二発電所の耐震安全性評価の基本事項）は妥当であるとの評価結果を受領しました。

当社としては、保安院からの評価結果も踏まえて、今後とも耐震安全性評価に係る取組みを着実に進め、耐震関係の最終報告書が出来るだけ早く提出できるよう努力しております。

以 上

東海第二発電所 タービン建屋オイルドレン系統概略図



オイルドレンサンプ水の系統運用・処理方法

- ①リサイクル系統(a 弁閉、b 弁開)にてサンプポンプを運転、サンプル水をシンクにて採取。[発電長]
- ②サンプル水の放射能測定、測定結果を発電長へ通知。[放射線・化学管理マネージャー]
- ③放射能測定結果より移送可否を判断。[発電長]
- ④移送系統(a 弁開、b 弁閉)へ系統構成を実施し、サンプポンプ運転、廃液を移送。[発電長]

* 今回の事象では、上記手順の①、②、③が実施されなかった。